登山道西側の斜面

3　今後の対策の提案

（1）伊吹山の生態系崩壊は「深刻なステージ」に突入

今回の被害は非常に大きいが、これは始まりであって決してこれで終わりではない。

今後、ニホンジカの更なる食害と気候変動による集中豪雨頻発の可能性を考えると、中腹斜面全面にわたって石灰岩の岩石だけがゴロゴロ露出するような、全国的にも例がない大規模な植生の衰退が想定される。伊吹山の生態系の崩壊は「深刻なステージ」に入った。

（2）中長期的な「伊吹山自然再生保全計画」の早期策定と事業実施

このような伊吹山の生態系の崩壊を少しでも食い止めるためには、応急対応だけでなく、早期に

①科学的な知見を踏まえた中長期的な「伊吹山自然再生保全計画」の策定

②計画的な対策の実施と、状況変化に対応した柔軟な取組、が不可欠である。

自然再生協議会、滋賀県、米原市が主体となって、「伊吹山自然再生保全計画」を策定し、実施することが必要である。

（3）国の支援、滋賀県・米原市の主体的な取組が不可欠

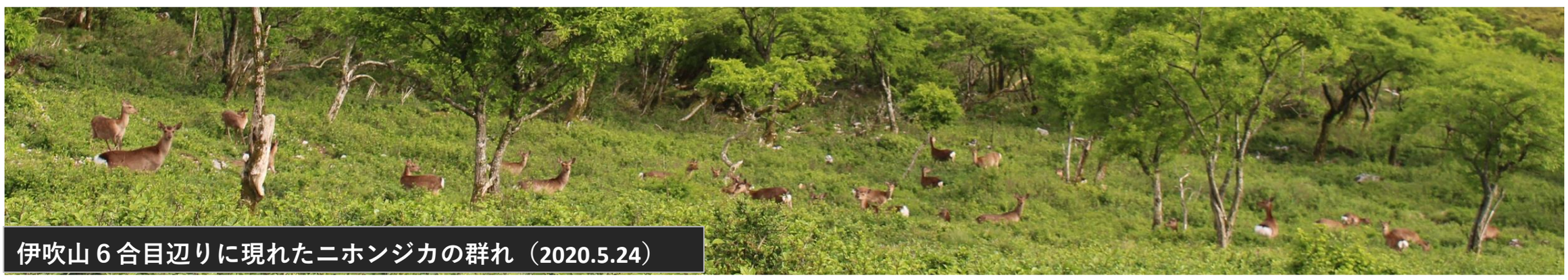
前記の「伊吹山自然再生保全計画」に基づく対策は、全国的にも例がないような規模の事業となることが見込まれ、この自然再生協議会の対応可能な範囲を超える。伊吹山は全国的にも登山者の多い日本百名山の一つであり、当該事業はニホンジカによる生態系崩壊対策のモデルケースとなることから、国に対して現状をしっかりと説明し、支援を求めるべきである。

また、昨年9月滋賀県議会で、知事は「伊吹山の自然環境を守っていくことがさらに重要となっており」、「伊吹山の自然再生に向け引き続きしっかりと取り組んでまいりたい」と答弁されている。市のシンボルとして伊吹山を位置付ける「米原市」とともに、「やまの健康」を県政の重要課題と位置付けられる「滋賀県」が環境、土木等の各部局連携のもと主体的に取組を講じて頂きたい。

（4）伊吹山入山協力金の増収対策と自然再生協議会事業の確実な推進

この自然再生協議会は、貴重な入山協力金を財源に各種事業を進め、獣害防止ネットの設置・強化など一定効果が出て、登山者からも花の回復に喜びや今後の期待の声もある。また、平成27年の導入以来7年が経過した入山協力金への理解も進み、昨年夏に伊吹山山頂で人的配置をした入山協力金の呼びかけの試行の取組でも、期待を上回る来山者の協力があったと聞いている。

是非、山頂での入山協力金徴収体制の改善によって財源さらなる増収を図り、効果的な事業を継続・推進して頂きたい。


伊吹山６合目辺りに現れたニホンジカの群れ（2020.5.24）